

明野遺跡

Akeno Site

国営尾鈴農業水利事業銀座第1ファームポンド工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

明野遺跡

Akeno Site

国営尾鈴農業水利事業銀座第1ファームポンド工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

宮崎県埋蔵文化財センター



明野遺跡 遠景1（南から尾鈴連山を望む）



明野遺跡 遠景2（西から銀座第2ファームポンド、唐瀬原段丘を望む）



明野遺跡 全景

序

宮崎県教育委員会では、平成18年度に国営尾鈴農業水利事業銀座第1ファームボンド工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しました。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した明野遺跡は、狭小の面積の調査ではありましたが、調査事例が少なく資料の蓄積に乏しい当該地域において、後期旧石器時代のナイフ形石器や細石刃、縄文時代早期の貝殻腹縁刺突土器や無文土器、押型文土器、貝殻条痕文土器などの出土は、当該期の地域間交流の様相を考える上で、良好な資料の蓄積となり大きな成果がありました。ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々に対して、厚くお礼申し上げます。

平成19年12月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 清野 勉

例　言

- 1 本書は平成18年度国営尾鈴農業水利事業銀座第1ファームボンド工事に伴い、宮崎県教育委員会が実施した宮崎県川南町大字川南字明野所在の明野遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所の依頼を受け、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は平成18年11月15日から平成19年1月31日まで行った。
- 4 現地での実測・写真撮影などの記録は黒木俊彦、橋本憲二が発掘作業員の協力を得て作成した。なお、空中撮影は有限会社ふじた、基準杭設置は有限会社進藤測量設計事務所に委託した。
- 5 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面作成・実測・トレイスは黒木が整理作業員の協力を得て行った。なお、石器の石材同定については松本茂の協力を得た。
- 6 本書で使用した第1図「位置と周辺遺跡図」は国土地理院発行の5万分の1図、第2図「周辺地形図」は国土地理院の承認助言を得て川南町役場が作成した1万分の1図を使用した。
- 7 本書で使用した土層断面及び遺物の色調等は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」による。
- 8 本書で使用した方位は座標北(座標第Ⅱ系)で、レベルの表示は海拔絶対高である。
- 9 本書の執筆は第1章第1節を文化財課日高広人が、その他の執筆・編集を黒木が行った。
- 10 出土遺物・その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに ······	1
第1節 調査に至る経緯 ······	1
第2節 調査の組織 ······	1
第Ⅱ章 調査の概要 ······	2 ~ 6
第1節 遺跡の位置と環境 ······	2
第2節 調査の経過 ······	5
第3節 基本層序 ······	6
第Ⅲ章 調査の記録 ······	8 ~ 22
第1節 調査第1面（始良Tn火山灰層下位層）の調査 ······	8
第2節 調査第2面（始良Tn火山灰層上位層）の調査 ······	13
第Ⅳ章 まとめ ······	22

挿図目次

第1図 明野遺跡 位置と周辺遺跡図 (1/50,000) ······	3
第2図 明野遺跡 周辺地形図 (1/5,000) ······	4
第3図 明野遺跡 グリッド配置図 (1/400) ······	5
第4図 明野遺跡 トレンチ位置図 (1/200) ······	7
第5図 明野遺跡 第1トレンチ土層断面 (1/20) ······	7
第6図 明野遺跡 第2トレンチ土層断面 (1/20) ······	7
第7図 明野遺跡 第3トレンチ土層断面 (1/20) ······	8
第8図 明野遺跡 第4トレンチ土層断面 (1/20) ······	8
第9図 明野遺跡 磺群、第VII層、第VIII層遺物出土状況 (1/200) ······	9
第10図 明野遺跡 磺群出土状況 (1/10) ······	9
第11図 明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土遺物 実測図① (2/3) ······	10
第12図 明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土遺物 実測図② (2/3) ······	11
第13図 明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土遺物 実測図③ (2/3) ······	12
第14図 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層遺物出土状況 (1/200) ······	14
第15図 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図① (1/3) ······	16
第16図 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図② (1/3) ······	17
第17図 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図③ (1/3, 2/3) ······	18
第18図 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図④ (2/3) ······	19

表目次

第1表 明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土石器觀察表 ······	13
第2表 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土土器觀察表 ······	21
第3表 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土石器觀察表 ······	21

図版目次

巻頭1 明野遺跡 遠景1 ······	巻頭1
巻頭2 明野遺跡 遠景2 ······	巻頭2
明野遺跡 全景 ······	巻頭2
図版1 明野遺跡 遠景3 ······	23
明野遺跡 遠景4 ······	23
図版2 明野遺跡 土層堆積状況 ······	24
明野遺跡 碓群（調査区壁面） ······	24
図版3 明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層（VII層）遺物出土状況（南西から） ······	25
明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層（VII層）石器出土状況 ······	25
図版4 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層（III層・IV層）貝殻腹縫刺突文土器出土状況 ······	26
明野遺跡 作業風景（東から） ······	26
図版5 明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土石器 ······	27
明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層（縄文早期）出土土器① ······	27
図版6 明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層（縄文早期）出土土器② ······	28
明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土石器 ······	28

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

農林水産省九州農政局宮崎農業水利事務所尾鈴農業水利事業建設所（平成17年より農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所）では、同地区の畑作振興を目的とし、烟台地への水源確保を図るために、切原ダムを築造及び既存の青鹿ダムを利用し、計画的な水利用を図ると共に、併せて関連する県営畑地帯総合整備事業を実施することによって末端の灌漑施設の整備を行い、農業生産性の向上と農業経営の安定を目指すため、平成8年度から「国営尾鈴土地改良事業」を展開している。

県文化課（平成17年度より文化財課）では、この事業計画を受けて計画予定地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて、平成7年度より同事業所と協議を開始し、平成11年度には藏座村遺跡で銀座第2ファームボンド建設工事に伴う発掘調査を実施している。

平成18年2月の協議において、川南町大字川南字明野で銀座第1ファームボンド建設に着手することが判明し、同工事箇所が藏座村遺跡の隣接地であるため、事前に遺跡の有無と内容を確認するための調査が必要であると判断し、同年7月には試掘調査を実施した。調査の結果、縄文時代早期の包含層を確認したことから遺跡の存在が確実となり、引き続き、計画変更等の埋蔵文化財保護の方策について協議を行ったが、工事区全域にわたり現状保存が困難という結論に至り、発掘調査による記録保存の措置をとることになった。

同年10月25日付で「埋蔵文化財発掘調査負担契約書」を締結し、県埋蔵文化財センターが発掘調査を同年11月15日から平成19年1月31日まで実施した。

第2節 調査組織

明野遺跡の発掘調査および整理作業・報告書作成は下記の組織で実施した。

調査主体 宮崎県教育委員会

平成18年度 発掘調査		平成19年度 整理作業・報告書作成	
調査機関	宮崎県埋蔵文化財センター	調査機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所長	清野 勉	所長	清野 勉
副所長	加藤 悟郎	副所長	加藤 悟郎
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫	総務課長	宮越 尊
総務課長	宮越 尊	総務課総務担当リーダー	高山 正信
総務課総務担当リーダー	高山 正信	調査第二課長	石川 悅雄
調査第四担当リーダー	近藤 協	調査第四担当 リーダー	近藤 協
調査第四担当 主査(調査担当)	黒木 俊彦	調査第四担当 主査(報告書担当)	黒木 俊彦
調査第四担当 主査(調査担当)	橋本 恵二	事業調整担当 主査	日高 広人(文化財課)
事業調整担当 主事	柳田 晴子(文化財課)		

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 遺跡の位置と環境

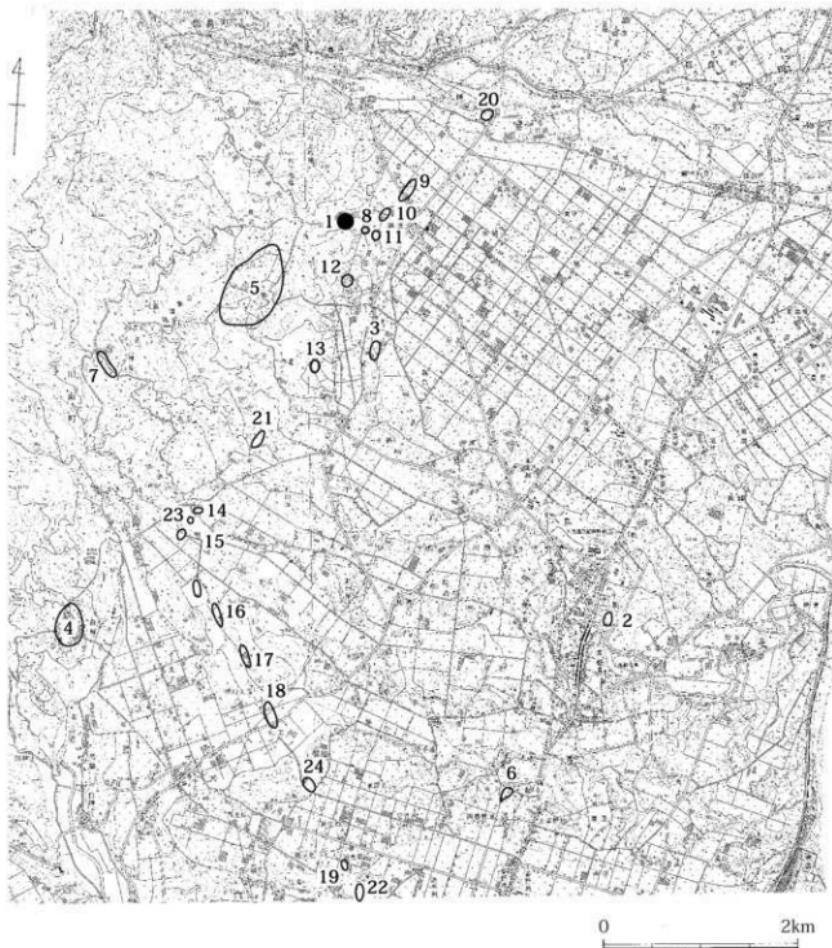
明野遺跡は、宮崎県川南町大字川南字明野に所在する。遺跡の位置する川南町は、日向灘に面した宮崎県の中部に位置し、じよめざやま 上面木山（1,040 m）から派生する山地および丘陵面とその東麓から海岸にかけて広がる段丘面から成る。段丘面は、一連の平坦面ではなく、崖によって区別され、青鹿面・茶臼原面・国光原面・唐瀬原面・川南原面などの計14面から構成される。本遺跡は、川南町市街地から北西へ約4km、標高約180m付近にある。旭ヶ丘などの標高200m付近に分布する青鹿面から標高100m付近の唐瀬原面に向かって形成される高位段丘面の北東縁辺部の斜面上に位置する。遺跡周辺の高位段丘面は、発掘調査例は少ないが、標高110～140m付近になると、旧石器時代から、歴史時代にかけての遺跡が数多く確認されている。

旧石器時代の遺跡調査例は後牟田遺跡や霧島遺跡と少なく、大野寅雄氏の踏査や川南町の分布調査によって、白鬚遺跡、旭ヶ丘遺跡、番野地C遺跡、椎原遺跡などが確認されていた。最近では、東九州自動車道建設や国営事業に伴う発掘調査等により、川南町内においても多数の遺跡で調査が行われている。本遺跡周辺では、藏座村遺跡（礫群1基等）、銀座第1遺跡、銀座第2遺跡（礫群3基等）、銀座第3A遺跡（礫群1基等）などが、その他町内では登り口第1遺跡、市納上第1遺跡、市納上第2遺跡、天神本第2遺跡、中ノ迫第1遺跡（礫群4.4基等）、中ノ迫第2遺跡、中ノ迫第3遺跡（礫群7基等）、前ノ田村上第1遺跡、国光原遺跡、西ノ別府遺跡などが確認されている。いずれの遺跡も台地（段丘面）および丘陵地に集中している。

縄文時代の遺跡調査例は後牟田遺跡、霧島遺跡、藏座村遺跡などの調査をはじめとして、川南町教育委員会の分布調査や東九州自動車道建設に伴う発掘調査などで数多くの遺跡が確認されている。とりわけ早期の遺跡が頗著であり、八幡第2遺跡（集石遺構1基等）、銀座第2遺跡、銀座第3A遺跡、登り口第1遺跡（炉穴9基等）、市納上第1、第2遺跡、虛空蔵免遺跡（集石遺構1基等）、天神本第2遺跡（集石遺構2基等）、中ノ迫第1遺跡（集石遺構2基、炉穴2基等）、中ノ迫第3遺跡（集石遺構3.2基、炉穴2.1基等）、国光原遺跡（集石遺構6.3基、炉穴4.1基等）、湯牟田遺跡（集石遺構2.3基等）など多くの遺構を残す遺跡も存在する。これらの遺跡も台地（段丘面）および丘陵地に位置している。

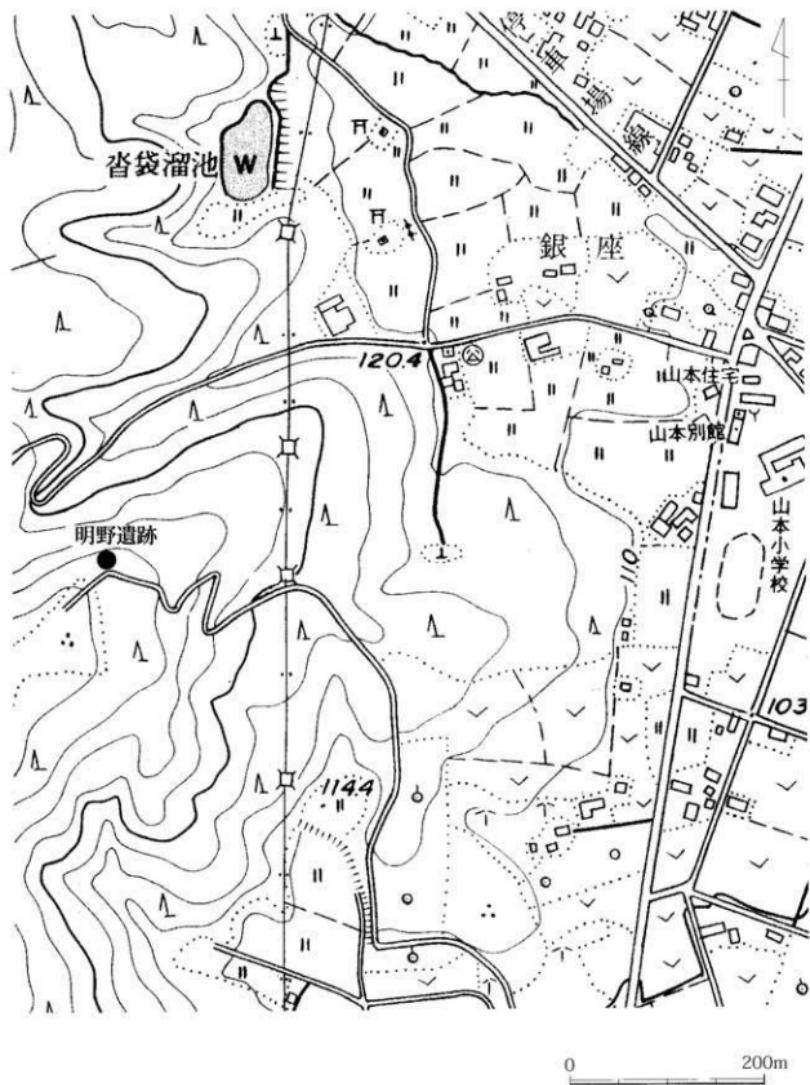
弥生時代の遺跡調査例は、市納上第1遺跡（竪穴住居跡1軒、周溝状遺構1基等）、大内原遺跡（竪穴住居跡1軒等）、八幡第2遺跡（竪穴住居跡9軒）、赤坂遺跡（竪穴住居跡2.3軒、周溝墓1基等）、湯牟田遺跡（竪穴住居跡2.4軒、掘立柱建物跡6軒等）などがあげられる。

歴史時代では、奈良～平安にかけての上垂門火葬墓や戦国期の宗麟原供養塔が知られる。中世から近代にかけての遺跡調査例として、前ノ田村上第1遺跡（掘立柱建物跡5.2棟、石組遺構1基等）、湯牟田遺跡（掘立柱建物跡2.3棟等）など当該期の調査例も増加してきている。



1 明野遺跡	2 後牟田遺跡	3 霧島遺跡	4 白堀遺跡
5 旭ヶ丘遺跡	6 番野地C遺跡	7 椎原遺跡	8 蔵座村遺跡
9 銀座第1遺跡	10 銀座第2遺跡	11 銀座第3A遺跡	12 登り口第1遺跡
13 市納上第1遺跡	14 天神本第2遺跡	15 中ノ迫第1遺跡	16 中ノ迫第2遺跡
17 中ノ迫第3遺跡	18 前ノ田村上第1遺跡	19 国光原遺跡	20 八幡第2遺跡
21 虚空藏免遺跡	22 湯牟田遺跡	23 大内原遺跡	24 赤坂遺跡

第1図【明野遺跡位置と周辺遺跡図 S = 1/50,000】



第2図【明野遺跡周辺地形図 S = 1/5,000】

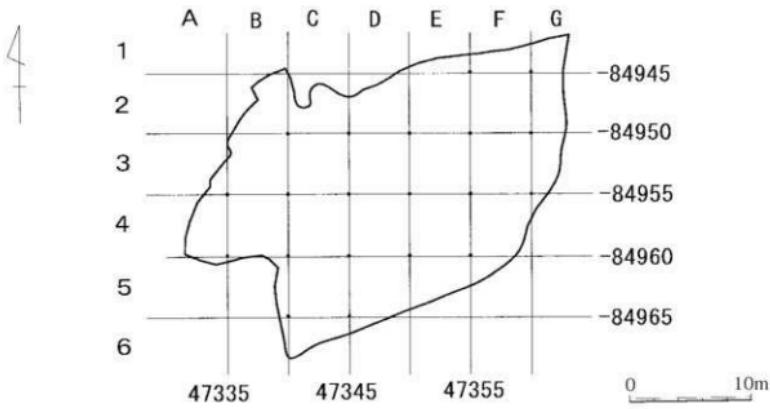
第2節 調査の経過

調査区は、段丘面の北東縁辺部の一部が山林として利用され、北側から南側にかけて扇状の斜面となり、南に向かうにつれてやや急な斜面を形成する。調査は平成18年11月15日から平成19年1月31日にかけて行い、750m²が調査対象面積である。まず、重機によって第I層および第II層を除去した。その際、調査区南側斜面と東側壁際においては、基底層である尾鈴山酸性岩類が露呈したため、調査対象から除外することとした。さらに、風倒木等の影響を受けたと思われる土層の擾乱範囲が数ヶ所発見された。とりわけ、調査区中央付近には5m×2m規模のものがあり、これらによつて、調査の重点を調査区西側および東側におくこととした。なお、調査の都合上調査区西側から掘り下げた。

西側の調査では、第III層上面で遺構精査を行うが、遺構は確認できなかった。遺物は、第III層から第IV層にかけて貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文、押型文、無文など縄文早期の土器が確認できた。石器は、大部分が剥片であり、製品は皆無であった。その後、第VI層（始良・丹沢火山灰層）上面までの掘り下げを進めたが、第VI層が明瞭に残っていたのは調査区の中央付近から北西地域にかけての範囲であり、他の部分については確認不能もしくは下位層との擾乱であった。第VI層を人力で除去し精査した結果、第VII層から第VIII層にかけて石器（旧石器）を確認した。また、北側のトレンチ付近の壁に面した個所では礫群の一部と見られる焼燶を数点確認した。

東側は第III層から掘削を行った結果、北側の壁際と中央付近に遺物の集中域が見られた。しかし、西側と同じ時期の遺物が確認できたものの、遺構は確認できなかった。

なお、調査は、記録図面作成のため、国土座標（X Y座標）に乗じた5m単位のグリッドを設定し、南北方向は北から南へA～G、東西方向は西から東へ1～6に区画し、調査区を設定した。以後の文書でこの区画を用いることとする。

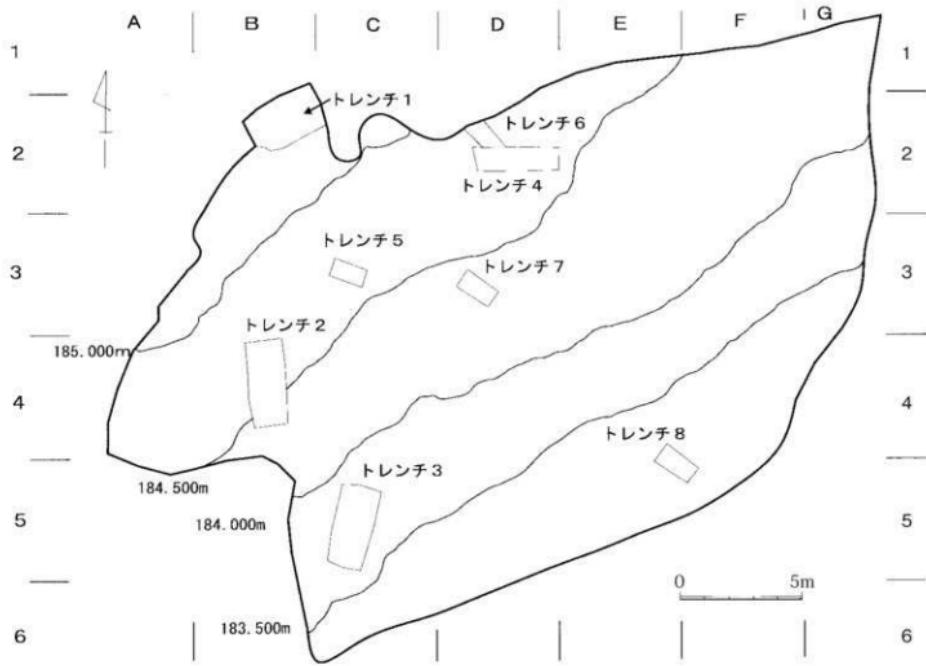


第3図【明野遺跡グリッド配置図 S=1/400】

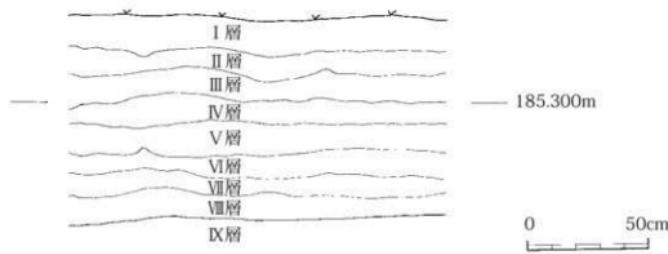
第3節 基本層序

明野遺跡は調査区が高位段丘面の縁辺部に位置する。調査区北側付近の標高が高く、南に向かうにつれて急に傾斜していく地形である。土層堆積状況は、遺跡が緩傾斜面上に立地しているため安定しておらず場所によって異なる。基本的な堆積については、年代測定の目安となる第Ⅱ層：アカホヤ火山灰層、第Ⅵ層：姶良・丹沢火山灰層（通称A T）などの火山灰層が確認できた。第Ⅱ層は調査区全体に10cm前後の層厚で明瞭に確認できたが、第Ⅵ層は先述のとおり、一部に確認できた状態であった。遺物は主に後期旧石器時代が第V、VII、VIII層から、縄文時代早期が第Ⅲ～Ⅳ層から出土した。基本層序は次のとおりである。

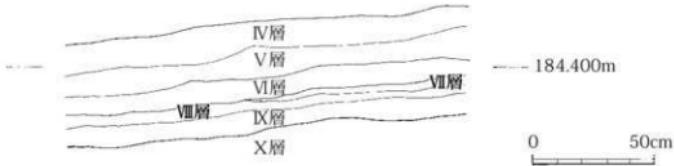
第Ⅰ層	表土（調査着手時は山林）
第Ⅱ層	黄橙色土層（Hue 7.5 YR 7/6） アカホヤ火山灰層。粘性弱く、しまりがなくもろい。
第Ⅲ層	黒褐色土層（Hue 10 YR 2/2） 細かい粒子で粘性弱く、しまりもなくもろい。
第Ⅳ層	暗褐色土層（Hue 10 YR 3/3） 細かい粒子で粘性強く、硬くしまっている。
第Ⅴ層	黒褐色土層（Hue 10 YR 2/3） 細かい粒子で粘性強く、硬くしまっている。
第Ⅵ層	明黄褐色土層（Hue 2.5 YR 6/7） 姶良・丹沢火山灰層。径1～5mmの粒子の塊をもつ。径2mm程度の灰白色の粒を含む。
第VII層	黒褐色土層（Hue 10 YR 3/2） 細かい粒子で粘性が強く、硬くしまっている。
第VIII層	褐色土層（Hue 7.5 YR 4/6） 細かい粒子で粘性かなり強く、硬くしまっている。
第IX層	赤色土（Hue 10 R 4/8） 細かい粒子で粘性があり、硬くしまっている。
第X層	礫層 尾鈴山酸性岩類で、基底である。



第4図【明野遺跡 トレンチ位置図 S = 1 / 200】



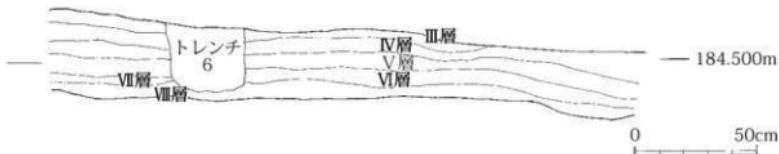
第5図【明野遺跡 第1トレンチ土層断面図 S = 1 / 20】



第6図【明野遺跡 第2トレンチ土層断面図 S = 1 / 20】



第7図【明野遺跡 第3トレンチ土層断面図 S=1/20】



第8図【明野遺跡 第4トレンチ土層断面図 S=1/20】

第三章 調査の記録

第1節 調査第1面（姶良Tn火山灰層下位層）の調査

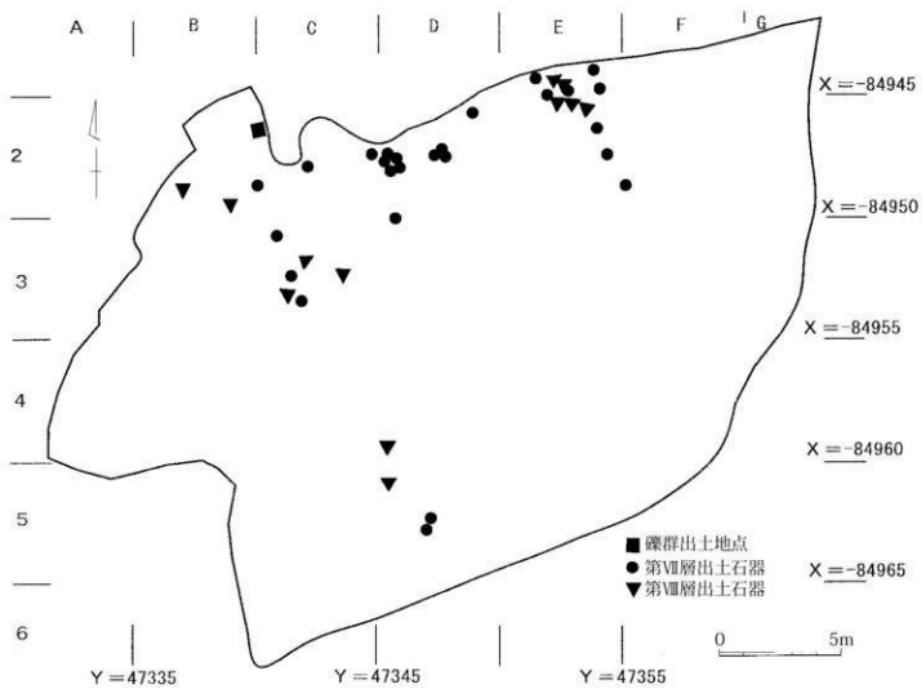
調査第1面（基本層序のVII, VIII層）の調査では、礫群1基、石器が出土した。本来ならば、第VII層と第VIII層で各々1面とするところであるが、第II章第3節で述べたとおり、基本層序の第VII層は調査区中央部から北西側の一部に残存が確認できたものの、急傾斜となる南側は第VII層と第VIII層との分層はできない状況であった。このため、第VII層と第VIII層を姶良Tn火山灰層下位層とし第1面として扱うこととした。

1 遺構・遺物

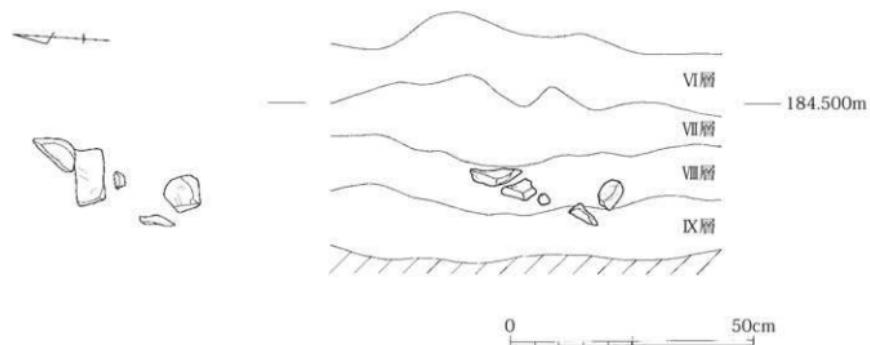
(1) 遺構

礫群

礫群は、調査区北西側に設定した第1トレンチ付近のC2グリッドの調査区壁に一部が表出した。姶良Tn火山灰層下位層の第VII層にあり、赤変した長さ4~17cm、個数5点からなる凝灰岩製の角礫・亜角礫で構成される。重量は総計約900gで最軽量は約22.2g、最重量は約375gである。礫はこの範囲で確認できたのみであり、周辺には検出されなかった。



第9図【明野遺跡 砂群、第VII層、第VIII層遺物出土状況 S=1/200】



第10図【明野遺跡 砂群出土状況 S=1/10】

(2) 遺物(石器 第11図、第12図、第13図)

第1面の遺物としては、ナイフ形石器1点、スクレイバー1点、石核1点その他細片約35点から成る。主な出土地点は、調査区南側のD5グリッドと比較的まとまった状態で出土しているE2グリッドである。これらのグリッド以外は、風倒木の影響で地層の搅乱が多く、遺物もほとんど見られなかった。

石材の特徴などから、以下のように分けた。

I群 石材が珪質頁岩で黒色石材のグループ(1~3・10・16)

珪質頁岩で一つの群としたが、一部には黒色流紋岩の可能性も含まれている。1は左側辺の上端に微細な剥離による調整が認められる縦長剥片である。2は数回にわたって打面を転移しながら剥離作業が行われたことが認められる石核である。3は右側辺に微細な剥離を有する剥片で下部は折りとられている。10は下部の一端にノッチ状の剥離を有する剥片である。16は背面に自然面を残す珪質頁岩製のスクレイバーである。ほぼ全周にわたって刃部を作出する。

II群 石材が珪質頁岩で褐色系石材のグループ(6・7・11・13・14)

6は右側辺に微細な剥離を有する剥片である。下部には切断部分が続いているものと考えられる。7は4同様両側辺に微細な剥離を有する剥片である。11はナイフ形石器である。左側辺、右側片の上部を1/3を刃部とし、左側片と右側辺の2/3に刃潰加工を施す。13は背面の右側辺下部に加工痕を有する剥片である。14は右側辺下部に剥離面を有する二次加工剥片である。

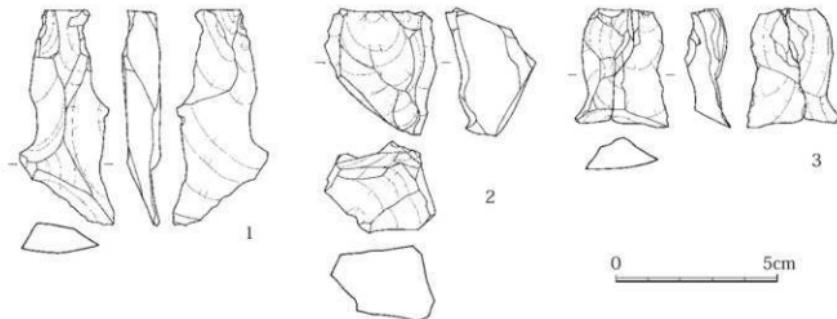
15は13、14の接合資料である。

III群 石材が流紋岩のグループ(4・5・8・9)

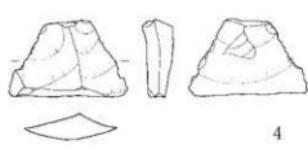
4は左側辺、右側辺にそれぞれわずかながら微細な剥離面を有する剥片である。5は両辺に微細な剥離を有する剥片である。8は剥片である。9は下部に微細な剥離を有する剥片である。

IV群 石材がホルンフェルスのグループ(12)

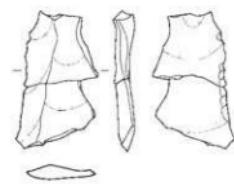
12は茶褐色で風化が著しく、剥離面が不明瞭である。腹面に敲打痕を残す。



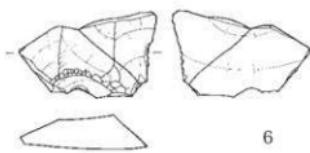
第11図【明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土遺物 実測図① S=2/3】



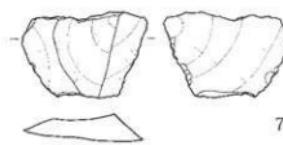
4



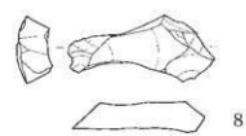
5



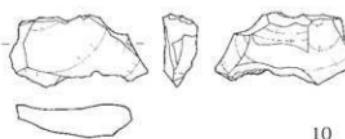
6



7



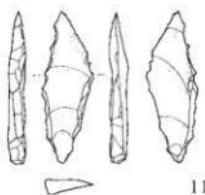
8



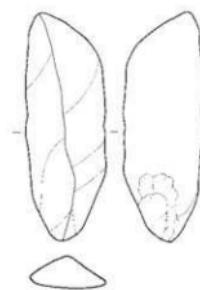
10



9



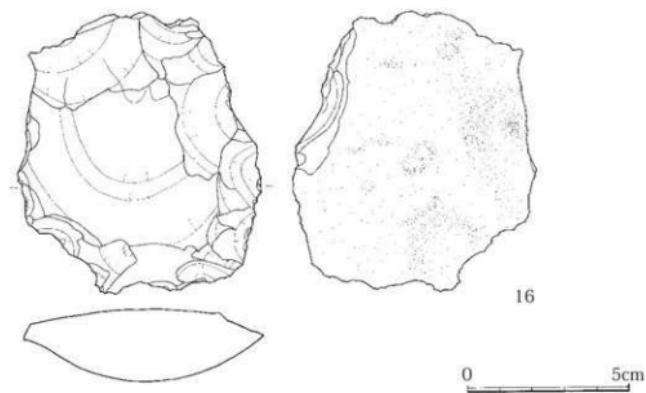
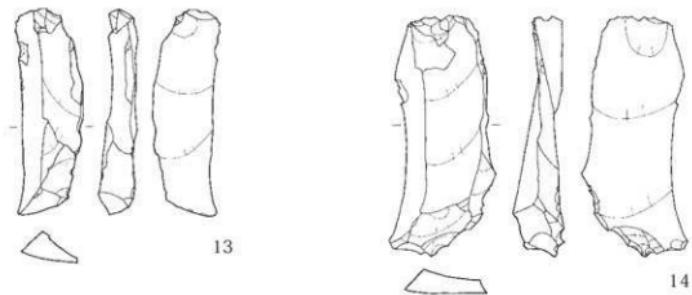
11



12

0 5cm

第12図【明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土遺物 実測図② S=2/3】



第13図【明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層出土遺物 実測図③ S=2/3】

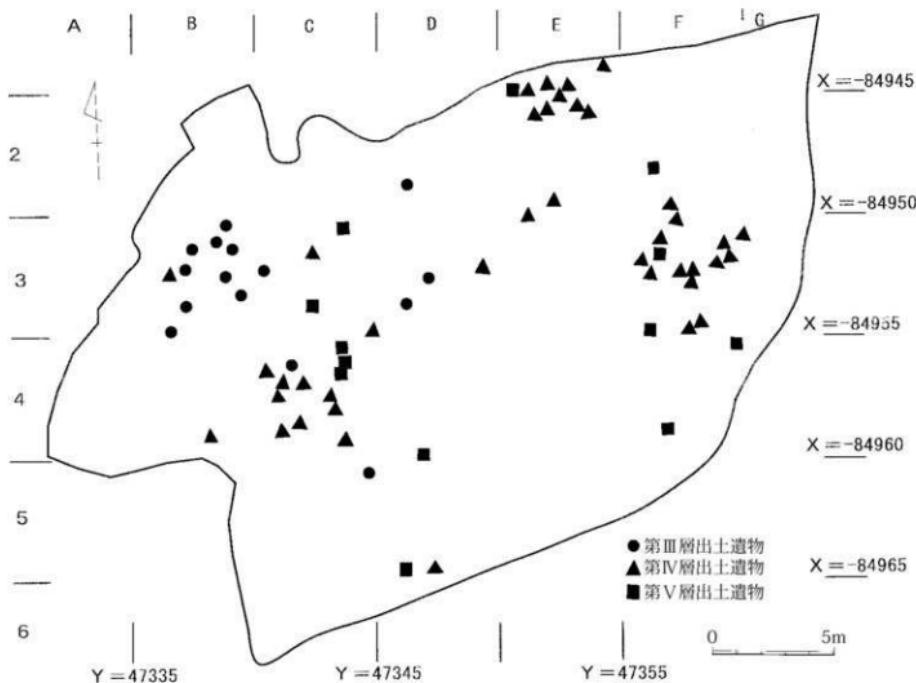
番号	器種	石材	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
1	微細な剥離を有する剥片	珪質頁岩	E 2 VII層	6.55	2.95	0.90	14.76
2	石核	珪質頁岩	C 2 VII層	3.90	3.40	2.80	30.65
3	微細な剥離を有する剥片	珪質頁岩	D 2 VII層	3.65	2.90	1.00	9.92
4	微細な剥離を有する剥片	流紋岩	C 3 VII層	2.35	3.65	0.95	5.33
5	微細な剥離を有する剥片	流紋岩	B 2・C 3 VII層	4.25	2.55	0.65	4.53
6	微細な剥離を有する剥片	珪質頁岩	E 2 VII・VIII層	2.65	4.20	1.10	13.58
7	微細な剥離を有する剥片	珪質頁岩	F 2 VII層	2.60	3.85	0.85	9.04
8	剥片	流紋岩	D 3 VII層	2.05	4.35	1.10	8.50
9	微細な剥離を有する剥片	流紋岩	C 3 VII層	2.30	3.30	1.00	6.80
10	剥片	頁岩	E 2 VII層	2.25	4.25	1.05	9.49
11	ナイフ形石器	頁岩	D 4 VII層	4.65	1.60	5.50	3.29
12	剥片	ホルンフェルス	E 1 VII層	7.00	2.50	1.00	15.44
13	微細な剥離を有する剥片	頁岩	D 5 VII層	6.30	2.05	1.15	11.11
14	二次加工剥片	頁岩	D 5 VII層	7.30	3.30	1.55	20.21
15	接合資料(13+14)	頁岩	D 5 VII層	7.60	3.30	1.85	31.32
16	スクレイパー	頁岩	E 1 VII層	8.55	7.50	2.20	175.90

第1表【明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層 出土石器観察表】

第2節 調査第2面(始良Tn火山灰層上位層)の調査

調査第2面(基本層序V、IV、III層)の調査は、調査区が北側から南側に下るにつれて急傾斜となるため、第IV層、第III層は一部で確認できず、第V層との明確な区別がつかない混在した状況となっている。したがって、始良Tn火山灰層の上位層ということで、一つにまとめるにすることにする。旧石器～縄文早期の時期として捉えられる。

この層からの遺構については、確認することができなかった。なお、D 3、D 4グリッドでは、風倒木の影響による下位層(礫層)の現出と考えられる場所があり、攪乱の範囲も広く、遺物の遺存状況に大きな影響を与えたと推測される。



第14図【明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層遺物出土状況 S=1/200】

1 遺物（土器 第15、16、17図、石器 第17、18図）

始良Tn火山灰上位層から鬼界アコホヤ火山灰下位層間は、縄文早期の土器（約50点）及び石器（約30点）が出土している。復元作業の結果、完形に近く復元できる個体は全く無い。また、接合できた土器片も限られ、少數であった。また遺存状態も悪く、小破片が多かった。以上により土器の文様により次の4類に大別する。

I類 無文土器（17～19）

II類 押型文土器（20・21）

III類 貝殻腹縁刺突文土器（22・23）

IV類 貝殻条痕文土器（24～37）

I類（第15図 17・18・19）

外面を丁寧なナデ調整のみで仕上げた文様のない土器である。器壁は、7～10mmとⅢ、Ⅳ類の土器群と比べて薄い。また、赤褐色を呈し、胎土に纖維を含むのも特徴的である。17は直立した口縁部形態を呈する。胸部は器壁がやや厚く、口縁部が薄い。口縁端部はやや丸みを帯び、内面調整は条痕後ナデで一部指頭痕もみられる。18、19は口縁部で、色調、調整方法、胎土などから17と同一個体と考えられる。器壁が約7mmで端部は丸みを帯びる。

II類（第15図 20・21）

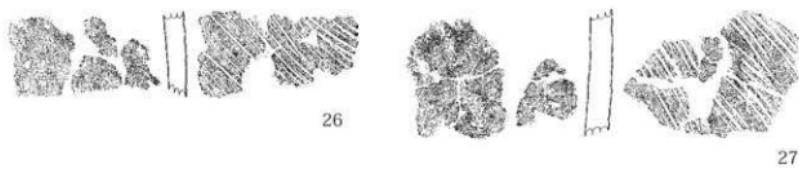
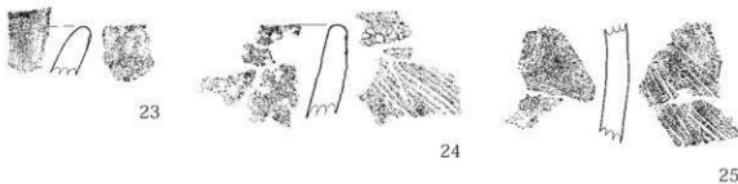
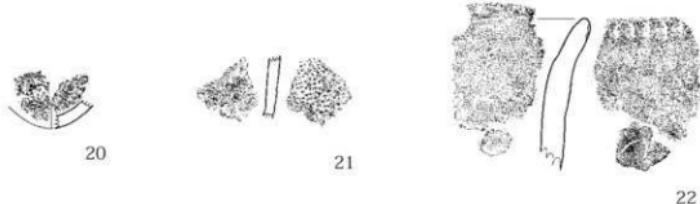
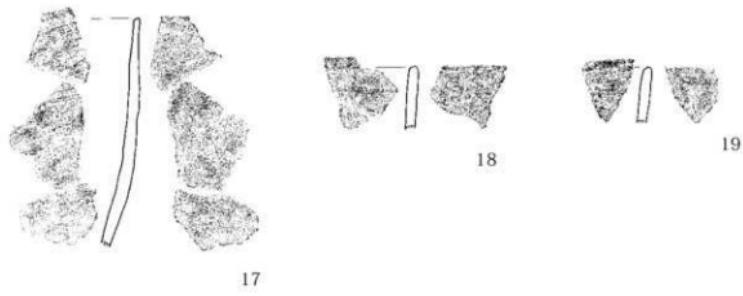
20、21は押型文土器である。径2～3mmの小形の橢円形押型文を施す。器壁は5～7mm程度とⅢ、Ⅳ類の土器群と比べて薄い。また褐色を呈し、胎土に纖維を含む。20は尖底部で明瞭な橢円押型文が横方向に施文される。内面は一部の指頭痕とナデを施す。21は胸部であるが、文様自体風化が著しい。

III類（第15図 22・23）

22、23は貝殻腹縁刺突文の土器である。口縁部から縱位に貝殻腹縁による刺突文を施す。器壁は10～18mmとI、II類に比べて厚い。また黄褐色を呈し、胎土に白色粒を多く含む。22は口縁部でわずかに外反し、端部は丸みを帯びる。文様は口縁部のみに施され、外面は丁寧なナデ調整が入る。同一個体と考えられる。23は22と類似した口縁部形態を呈している。土器片左端はやや肥厚しており、こぶ文が装飾されていた可能性もある。

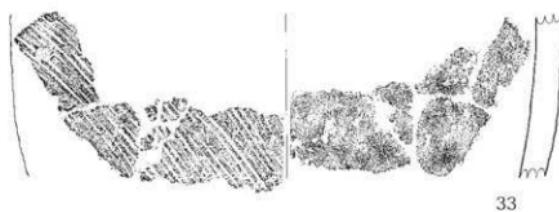
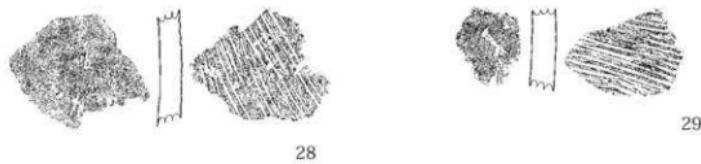
IV類（第15図 24～27 第16図 28～35 第17図 36・37）

24～37は貝殻条痕文の土器である。口縁部～胸部にかけて斜位に貝殻条痕を施す。器壁は12～15mmとI、II類に比べて厚い。また、黄褐色を呈し、胎土に白色粒を多く含む。24は直立気味の口縁部で端部はやや丸みを帯びる。口縁部上端には刺突文を施し、以下は斜位に貝殻条痕文を施す。25～33は胸部である。条痕は3～4条単位で、斜方向に施される。34は条痕の幅が極めて細く、撫糸で施文した可能性もある。24、25とは明らかに異なる。36の底部付近は風化が著しく条痕が不鮮明である。器面は赤味を帯びる。37は丸底気味の底部片である。



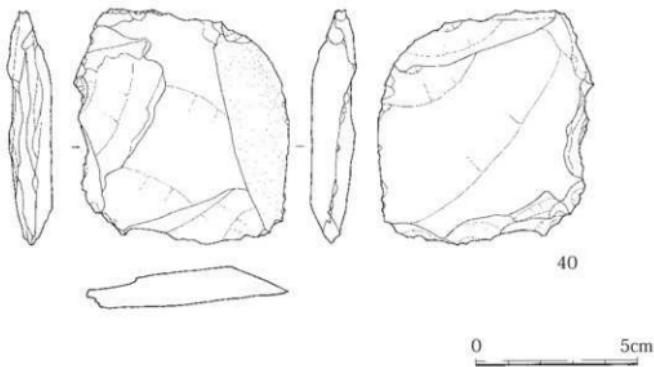
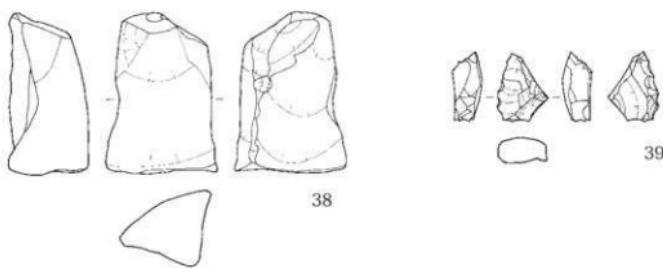
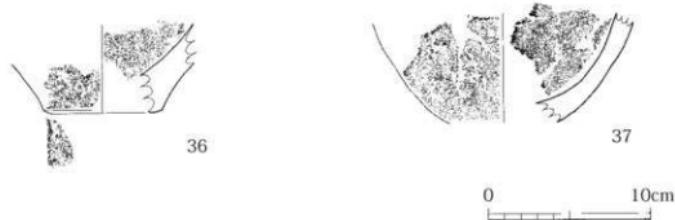
0 10cm

第15図【明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図① S=1/3】



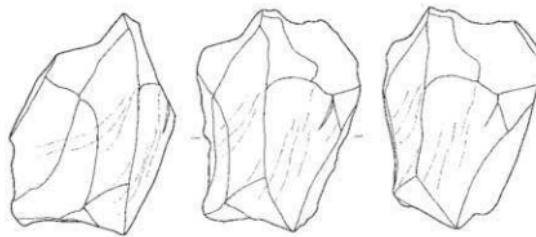
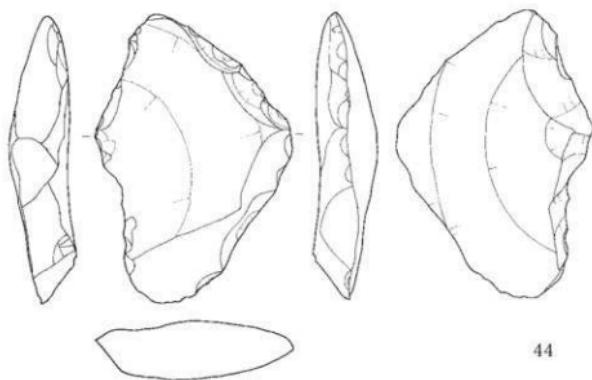
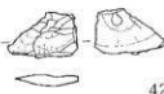
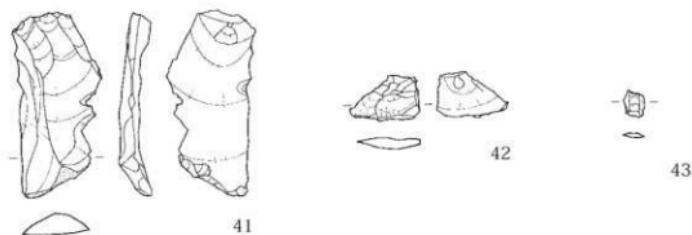
0 10cm

第16図【明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図② S=1/3】



第17図【明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図③】

S=1/3(36 37) S=2/3(38~40)】



第18図【明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層出土遺物 実測図④ S=2/3】

遺物番号	種別	器種	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様はか		焼成	色調		胎土の特徴	備考			
				口径	底径() 内は標準	器高	外 面	内 面		外 面	内 面					
17	縄文土器	深鉢	C 4 IV層	—	—	—	ナデ	工具による痕 や斜方角のナデの後、ナデ	良好	明赤褐色 にぶい 赤褐色	2 mm以下の灰黄色・黒褐色・褐色粒、微細な無色透明な光沢粒を含む	織部痕				
18	縄文土器	深鉢	C 4 IV層	—	—	—	ココナデ、ナ デ	ヨコナデ、工 具による横方 向のナデの後、ナデ	良好	明赤褐色 にぶい 赤褐色	1 mm以下の褐色・黒褐色粒、微細な無色透明な光沢粒を含む	織部痕				
19	縄文土器	深鉢	C 4 IV層	—	—	—	ヨコナデ、工 具による横方 向のナデの後、ナデ、一 部黒変	工具による横方 向のナデの後、ナデ、一 部黒変	良好	明赤褐色 灰褐色	2 mm以下の褐色・黒褐色粒、1 mm以 下の無色透明な光沢粒を含む	織部痕				
20	縄文土器	深鉢 底部	C 3 IV層	—	—	—	柳円押型文	ナデ	良好	明赤褐色 にぶい 赤褐色	2 mm以下の淡黄色・黒褐色粒、1 mm 以下の無色透明な光沢粒を含む	実底 織部痕				
21	縄文土器	深鉢? 胸部	F 4 カクラン	—	—	—	柳円押型文	ナデ、指痕?	良好	にぶい 褐色 にぶい 褐色	6 mm以下の暗灰黃粒、2 mm以下の黑 褐色、淡黄色粒を含む	織部痕				
22	縄文土器	深鉢	B 3 Ⅲ層 C 4 IV層	—	—	—	貝殻腹縫によ る連続刺突 文、ナデ	工具による横方 向のナデの後、ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の黒褐色・褐色粒、1 mm以 下の淡黄色粒、微細な金色光沢粒を 含む					
23	縄文土器	深鉢	B 3 Ⅲ層 口縁	—	—	—	貝殻腹縫によ る刺突文、ナ デ	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の淡黄色・黒褐色・褐色粒、 微細な金色光沢粒を含む					
24	縄文土器	深鉢 口縁	B 4 IV層	—	—	—	刺突文、斜方 向の貝殻条 縫文	風化著しい	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の灰白色・黒褐色・褐色粒、 1 mm以下の柱状黑色光沢粒、微細な 無色透明な光沢粒を含む					
25	縄文土器	深鉢 胸部	F 3 IV層	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の灰白色・黒褐色・褐色粒、 1 mm以下の柱状黑色光沢粒、微細な 無色透明な光沢粒を含む					
26	縄文土器	深鉢 胸部	F 3 IV層	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	3 mm以下の灰白色、2 mm以下の淡黄 色・灰白色・黒褐色・褐色粒、1 mm以 下の柱状黑色光沢粒、微細な無色透明 な光沢粒を含む					
27	縄文土器	深鉢 胸部	一括	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文、一部 風化	ナデ、一部黒 変	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	3 mm以下の灰白色の點、2 mm以下の 橙色・褐色・黒褐色粒、1 mm以下の 柱状黑色光沢粒、微細な無色透明 な光沢粒を含む					
28	縄文土器	深鉢 胸部	F 3 IV層	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の灰白色・黒褐色・褐色粒、 微細な無色透明な光沢粒を含む					
29	縄文土器	深鉢 胸部	一括	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文、一部 黒變	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の灰白色・黒褐色・褐色粒、 1 mm以下の柱状黑色光沢粒と無色透 明な光沢粒を含む					
30	縄文土器	深鉢 胸部	F 3 IV層	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文、貝殻 条縫文の後ナ ギラ	貝殻 条縫文 がみられる	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の灰白色・黑褐色・淡黄色粒、 微細な無色透明な光沢粒を含む					
31	縄文土器	深鉢 胸部	F 3 IV層	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	1 mm以下の灰白色・褐色・黒褐色粒、 1 mm以下の柱状黑色光沢粒と無色透 明な光沢粒を含む					
32	縄文土器	深鉢 胸部	一括	—	—	—	斜方向の貝殻 条縫文、ナデ	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	3 mm以下の黒褐色の點、2 mm以下の 淡黄色・灰白色・灰褐色粒、1 mm以 下の柱状黑色光沢粒と無色透明 な光沢粒を含む					
33	縄文土器	深鉢 胸部	F 3 IV層	—	(22)	—	斜方向の貝殻 条縫文	ナデ	良好	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2 mm以下の灰白色・褐色・黒褐色 粒、1 mm以下の柱状黑色光沢粒、微 細な無色透明な光沢粒を含む	保存度約 1/8				

遺物番号	種別	器種	出土地点 部位	法線(cm)		手法・調整・文様ほか		焼成	色調		散土の特徴	備考
				口径 径 内は 指定	底径 () 内は 指定	器 高	外 面		外 面	内 面		
				—	—	—	斜方向の貝殻 壳痕の後ナデ		自 然	にぶい 黄相	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の灰 褐色・にぶい褐色。微細な無色透 明な光沢粒を含む	
34	縄文土器	深鉢	E 2 IV層	—	—	—	斜方向の貝殻 壳痕の後ナデ	ナデ	自 然	にぶい 黄相	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の灰 褐色・にぶい褐色。微細な無色透 明な光沢粒を含む	
35	縄文土器	深鉢	E 2 IV層	—	—	—	斜方向の貝殻 壳痕、風化 きみ	ナデ、炭化物 付着	自 然	にぶい 灰相	2mm以下のにぶい相・灰褐色・黑褐色。 微細な無色透明の光沢粒を含む	
36	縄文土器	深鉢 脚部～底部	B 3 III層	—	(7.4)	—	ナデ	ナデ	自 然	にぶい 黄相	1mm以下の灰白色・灰褐色・黑褐色 1mm以下の柱状黑色光沢粒と無色透 明な光沢粒を含む	残存度 約1/8
37	縄文土器	深鉢 底部	E I IV層	—	—	—	無文、ナデ	ナデ、全体的 に黒変	自 然	にぶい 黒相	2mm以下の褐色・灰白色・黑褐色。 1mm以下の柱状黑色光沢粒と無色透 明な光沢粒を含む	残存度 約1/5

第2表【明野遺跡 始良T n火山灰層上位層 出土土器観察表】

番号	器種	石材	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
38	剥片	ホルンフェルス	C 4 V層	4.95	3.45	2.45	42.41
39	微細な剥離を有する剥片	黒曜石	F 4 V層	2.10	1.55	0.90	2.46
40	微細な剥離を有する剥片	貞岩	F 4 V層	7.20	6.62	1.35	70.70
41	微細な剥離を有する剥片	貞岩	E 2 V層	5.60	2.75	1.00	9.77
42	微細な剥離を有する剥片	チャート	E 2 IV層	1.40	2.15	0.35	1.13
43	細石刃	黒曜石	E 2 IV層	0.80	0.65	0.15	0.07
44	二次加工剥片	ホルンフェルス	E 2 IV層	8.80	6.05	2.00	96.00
45	石核	ホルンフェルス	E 3 IV層	6.80	5.10	4.10	163.10

第3表【明野遺跡 始良T n火山灰層上位層 出土石器観察表】

石器については、製品として使用されたとはいいがたいものが多く、そのほとんどが剥片である。3 8は、ホルンフェルスの剥片と考えられるが、風化が著しく稜線、リングなども不明瞭である。3 9は日東産の黒曜石で、使用痕と考えられる微細な剥離を有する剥片である。4 0は貞岩製の剥片である。左下部、右下部、左上部など微細な剥離を有する剥片である。4 1は縱長剥片である。右側辺に打痕があることから、二次加工した剥片と考えられる。4 2はチャート製の剥片、4 3は産地の特定はできないが、黒曜石製の細石刃である。4 4はホルンフェルスの二次加工剥片である。右上側辺、右下側辺、左上側辺、左下側辺の一部に刃部を施す。4 5はホルンフェルスの石核と考えられる。風化が著しく稜線、リングが不明瞭である。

第IV章 まとめ

本遺跡は標高約180～190mの高位段丘面にある丘陵縁辺部の遺跡で、北から南東に向けて北高約3mで下がる傾斜地形に位置していた。こうした地理的条件の中で、本遺跡における人々の生活として次のようなことが考えられる。

立地環境からは、標高約180m前後の場所で人々が生活していることや遺構が礫群1基（残存）のみであったことなどから、本遺跡の旧石器～縄文時代の生活集団は旭ヶ丘面を中心に生活基盤をもつ地域集団の一部である可能性が考えられる。また、遺物の出土状況から遺跡内の生活の主体は調査区北側の平坦部であること、さらには、遺物の出土量が少ないと、南の急傾斜に進むに従って遺物がきわめて少なくなること、風倒木による攪乱を数々受けていることなどから南側は生活の場として成立し難い環境であったことが考えられる。

また、約140mの下段丘に隣接している藏座村遺跡（銀座第2ファームボンド建設に伴い平成11年度調査）の出土遺物と比較すると、旧石器時代では藏座村遺跡出土の旧石器が層位の不確実な層（旧石器～縄文早期）からの出土であったことに比べて、本遺跡では明らかに始良Tn火山灰層下位層から出土している。よって、この高位段丘面がすでに始良Tn火山灰降下以前に旧石器時代人の足跡が印されていたことが明らかになった。縄文時代早期の遺物では、藏座村遺跡では集石遺構に伴つて無文土器、貝殻条痕文土器、押型文土器、塞ノ神式土器、轟式土器が出土し、本遺跡においては遺構に伴うものではなかったが、共通する遺物として無文土器、貝殻条痕文土器、押型文土器が出土した。このことは、縄文時代早期のある時期において両遺跡共通する生活圏の一部であったことを窺わせるものである。

以上のように、本遺跡特有の立地環境に起因して、完全な遺構といえるものが検出されなかつことと、出土遺物についてもきわめて少量であったこと、また、傾斜地特有の地層の自然崩落（地滑り）による攪乱がみられたことなど、生業活動の中心的な場から離れた周辺地域に位置していたことが窺える。よって、旭ヶ丘面に生活基盤をもつ旧石器～縄文時代早期の生活集団は、本遺跡周辺については副次的な利用にとどまったという事実を指摘することができる。

参考文献

- ・「藏座村遺跡」国営農業水利事業尾鈴銀座2号ファームボンド建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第53集 2002年
- ・秋成 雅博「宮崎10段階編年の概要」南九州の旧石器—最近の調査結果から—九州旧石器 第9号 2005年
- ・「銀座第2遺跡」東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書20 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第115集 2005年
- ・「銀座第1遺跡」（一・二・三・四次調査）東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書25 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第120集 2006年



明野遺跡 遠景 3（西から）



明野遺跡 遠景 4（南東から）



明野遺跡 土層堆積状況



明野遺跡 磚群（調査区壁面）



明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層（VII層）遺物出土状況（南西から）



明野遺跡 始良Tn火山灰層下位層（VII層）石器出土状況



明野遺跡 始良Tn火山灰層上位層（Ⅲ層・Ⅳ層）貝殻腹縁刺突文土器出土状況



明野遺跡 作業風景（東から）